

大岡川水系河川整備計画

平成 27 年 5 月

神 奈 川 県

大岡川水系河川整備計画

目 次

第1章	流域及び河川の概要	3
第1節	流域の概要	3
第2節	河川の概要	9
第2章	河川の現状と課題	12
第1節	洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する事項	12
第2節	河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項	16
第3節	河川環境の整備と保全に関する事項	19
第3章	河川整備計画の目標に関する事項	23
第1節	計画対象区間	23
第2節	計画対象期間	23
第3節	洪水による災害の発生の防止または軽減に関する事項	24
第4節	河川の適正な利用及び流水の正常な機能維持に関する事項	25
第5節	河川環境の整備と保全に関する事項	25
第4章	河川整備の実施に関する事項	26
第1節	河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により 設置される河川管理施設の機能の概要	26
第2節	河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項	29
第3節	河川環境の整備と保全に関する事項	29
第4節	河川の維持の目的、種類及び施行の場所	30
第5章	その他	32
第1節	地域と連携した河川管理	32

第1章 流域及び河川の概要

第1節 流域の概要

大岡川は、横浜市内の中でも豊かな自然の残されている磯子区えんかいざんの円海山えんかいざん（標高 153m）の氷取沢ひとりざわにその源を發し、丘陵地帯に挟まれた谷を下り上大岡かみおおおかで左支川の日野川ひのを合わせた後に、平地部をゆるやかに流下し横浜市南区山王町のお三おのさんの宮付近で中村川なかむらを分派し、横浜市中区さくらざちょうの桜木町駅付近で横浜港に注いでいる。お三の宮付近で大岡川から分派した中村川はすぐに堀割川ほりわりを分派した後に、大岡川の南側を大岡川とほぼ平行に横浜の中心市街地を挟む形で流れ、西の橋付近で堀川と名前を変え、中区の山下町で横浜港に注いでいる。堀割川は国道 16 号に沿って南下し、根岸湾に注いでいる。幹川流路延長は約 14km、流域面積約 35.6km²の二級河川である。

なお、大岡川及び日野川の上流は、それぞれ横浜市が管理する準用河川となっている。

大岡川流域は南北に長い形状で、横浜市西区、中区、南区、港南区、保土ヶ谷区、磯子区、金沢区、栄区の8区にまたがっており、南部は主に住宅地、北部は横浜の中心市街地となっている。地域にとって大岡川は住民の身近な河川であると共に、横浜の中心市街地におけるシンボリックな意味合いを持ち、石積み形状の護岸やかつての荷揚場等、港町横浜の発展を支えた運河の面影が残る川である。

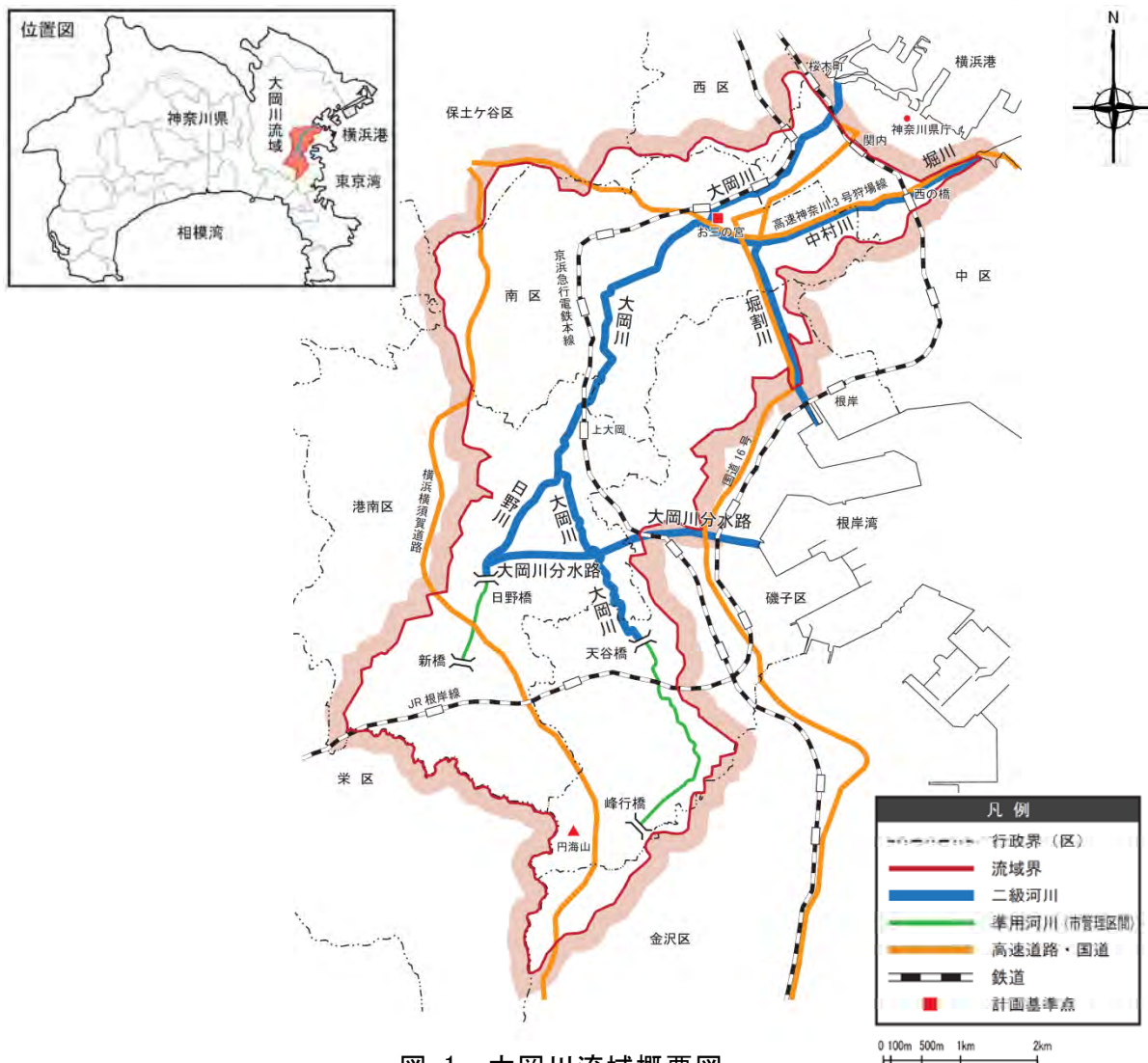
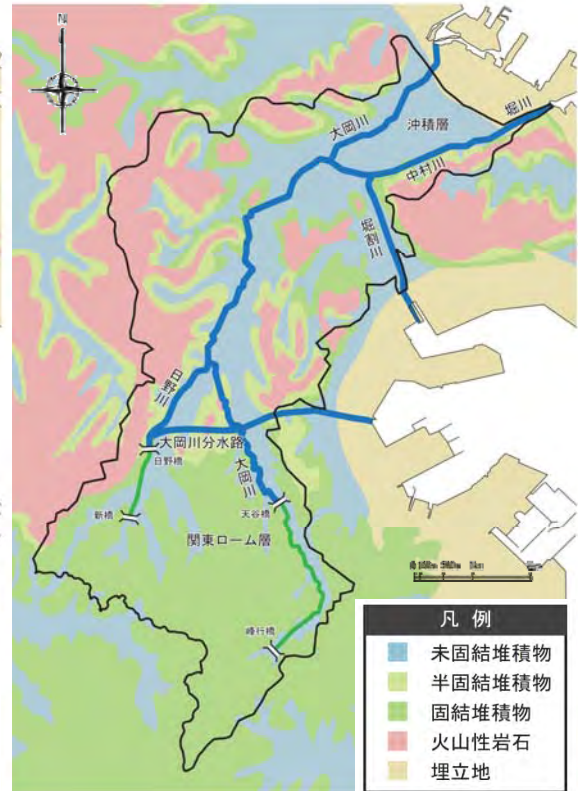
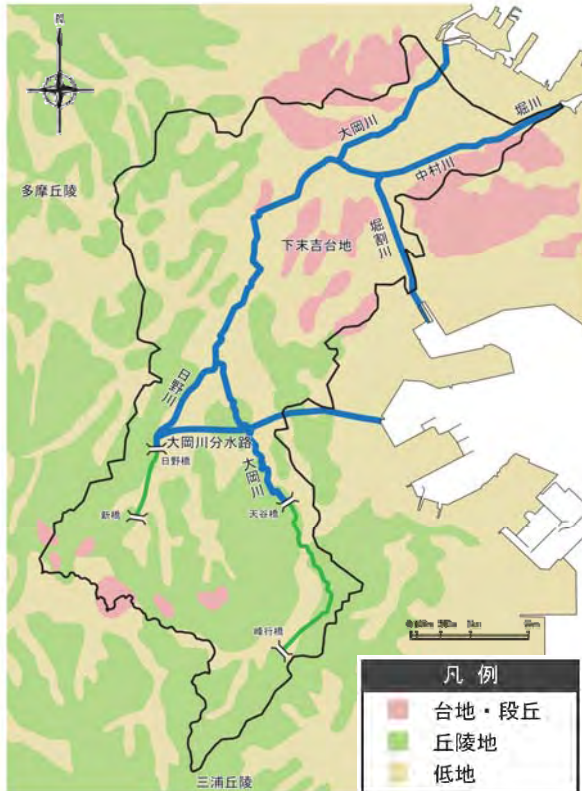


図 1 大岡川流域概要図

[地形・地質]

大岡川流域の地形は、源流より日野川合流点付近までが丘陵となっており、それより下流は低地や台地・段丘となっている。

流域の地質は、丘陵部は富士山噴火の堆積物からなる関東ローム層が地表を覆い、その下には洪積細砂が堆積している。また、平地部は、泥や砂及び礫からなる沖積層で構成されている。



出典：地形分類図（国土地理院 土地分類基本調査 1/20万）

図 2 大岡川流域地形図

図 3 大岡川流域表層地質図

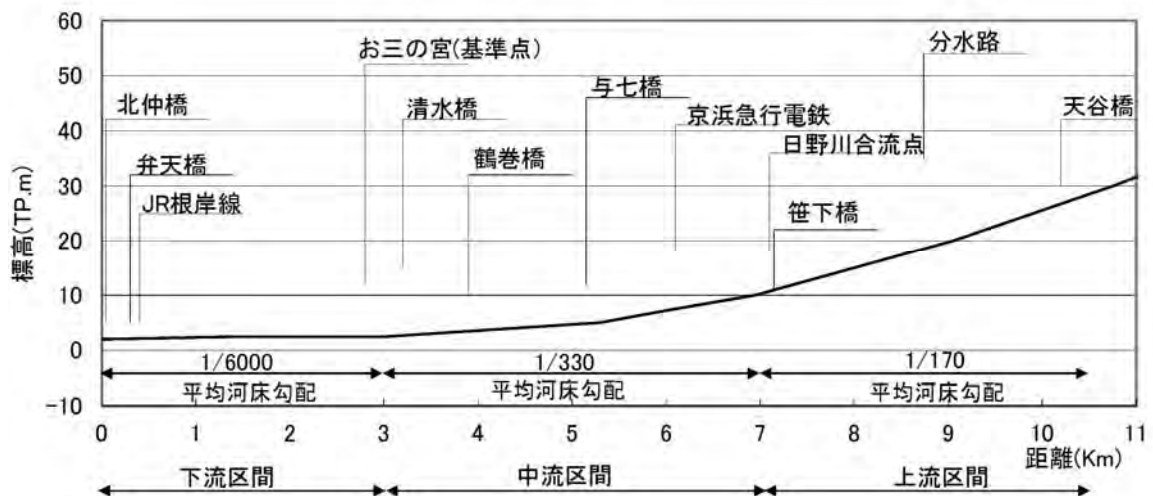
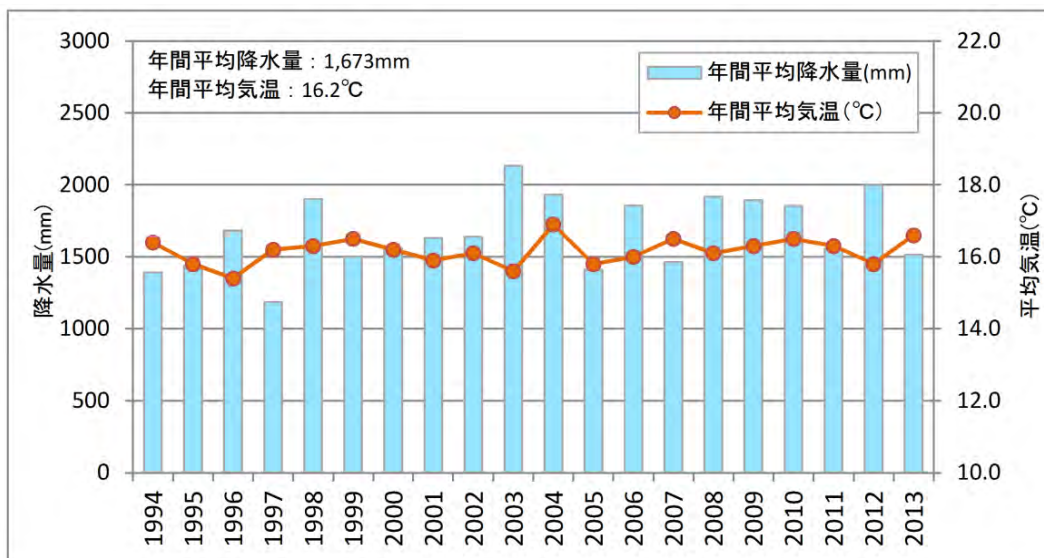


図 4 大岡川縦断図

[気候]

流域の気候は、夏期は高温多湿、冬期は乾燥する太平洋側気候を示し、年間平均気温が約 16℃となっている。また、年間平均降水量は約 1,700mm となっている。

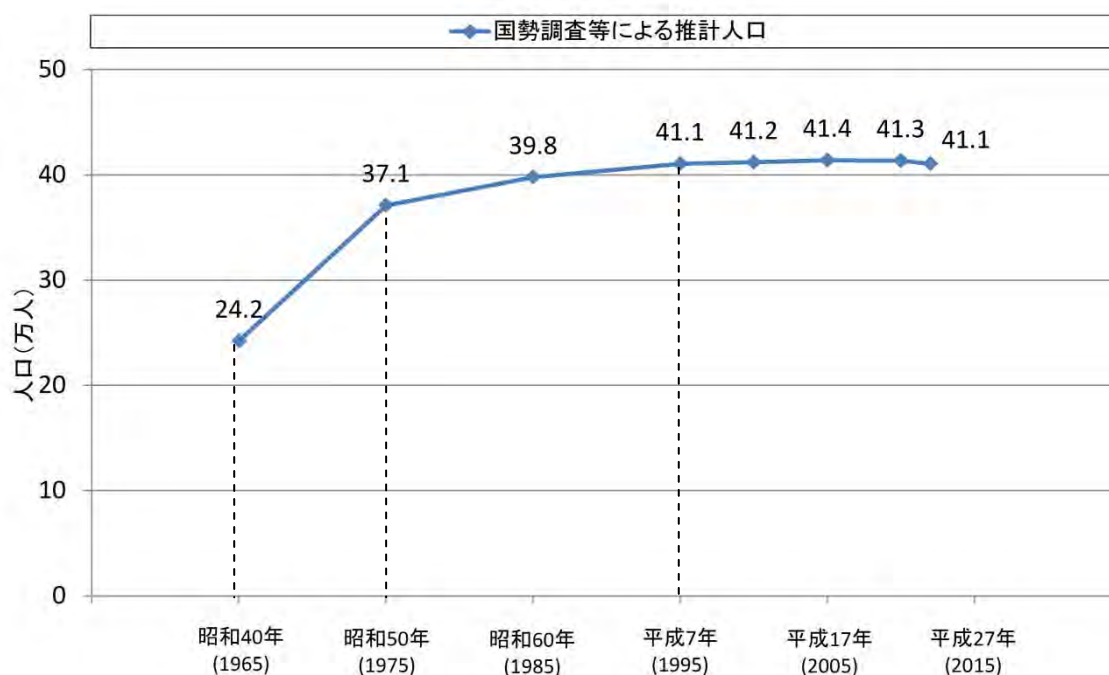


出典：気象庁 HP

図 5 大岡川流域近辺の年間平均降水量と平均気温
(1994～2013年：近年20年間の横浜地方気象台の平均値)

[人口]

流域の人口は、昭和40年には約24万人であったが、昭和50年にかけて横浜市の発展に伴い人口が急増し、その後、緩やかに増加を続け平成7年には約41万人に達している。

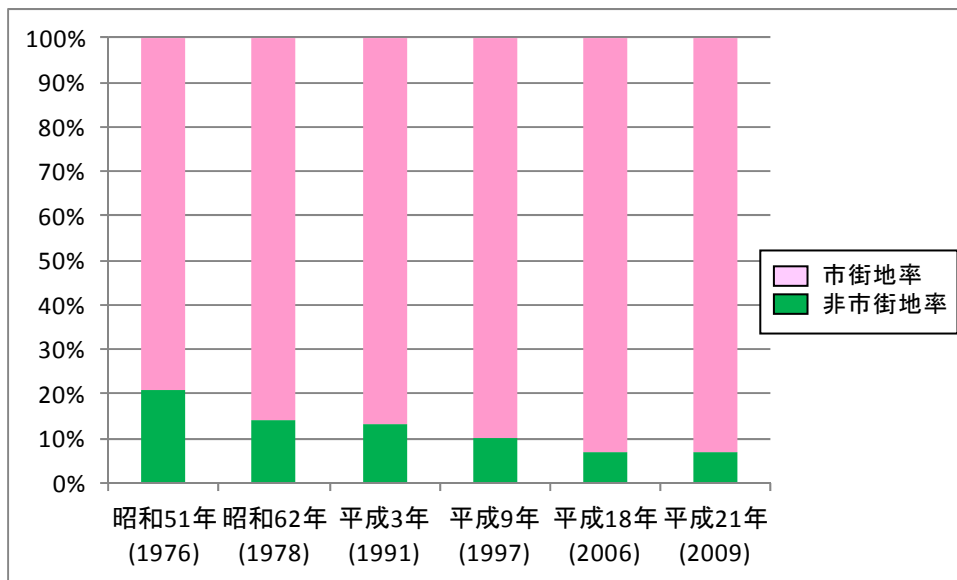


出典：横浜市 HP・国勢調査に関する地域メッシュ統計（総務省統計局）

図 6 大岡川流域の人口推移

[土地利用]

流域における市街地率は昭和 51 年度では約 80%であったが、その後人口の増加とともに拡大し、平成 21 年度には約 95%に達しており、非市街地は上流域の丘陵地のみとなっている。

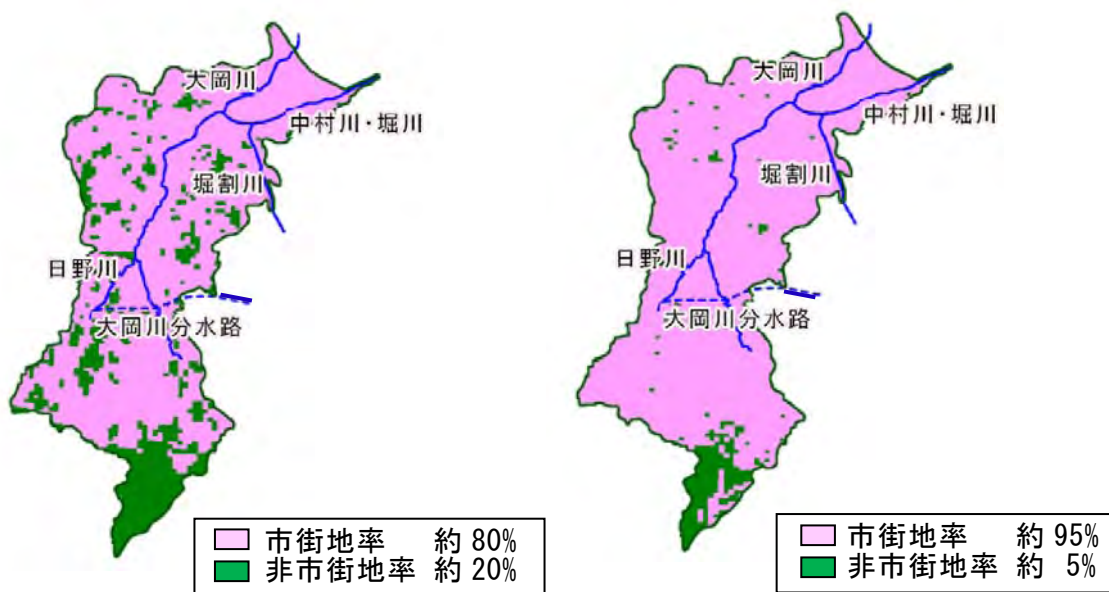


出典：土地利用細分メッシュ（国土交通省国土計画局）

図 7 大岡川流域の土地利用比率の変遷

(昭和 51 年度)

(平成 21 年度)



※市街地は、市街化区域と市街化調整区域の合計である。

図 8 大岡川流域の土地利用状況図

[交通]

流域では交通網が発達しており、京浜急行電鉄本線や横浜市営地下鉄ブルーラインが流域を縦断し、流域の西側では横浜横須賀道路、東側ではJR根岸線や国道16号が通っている。

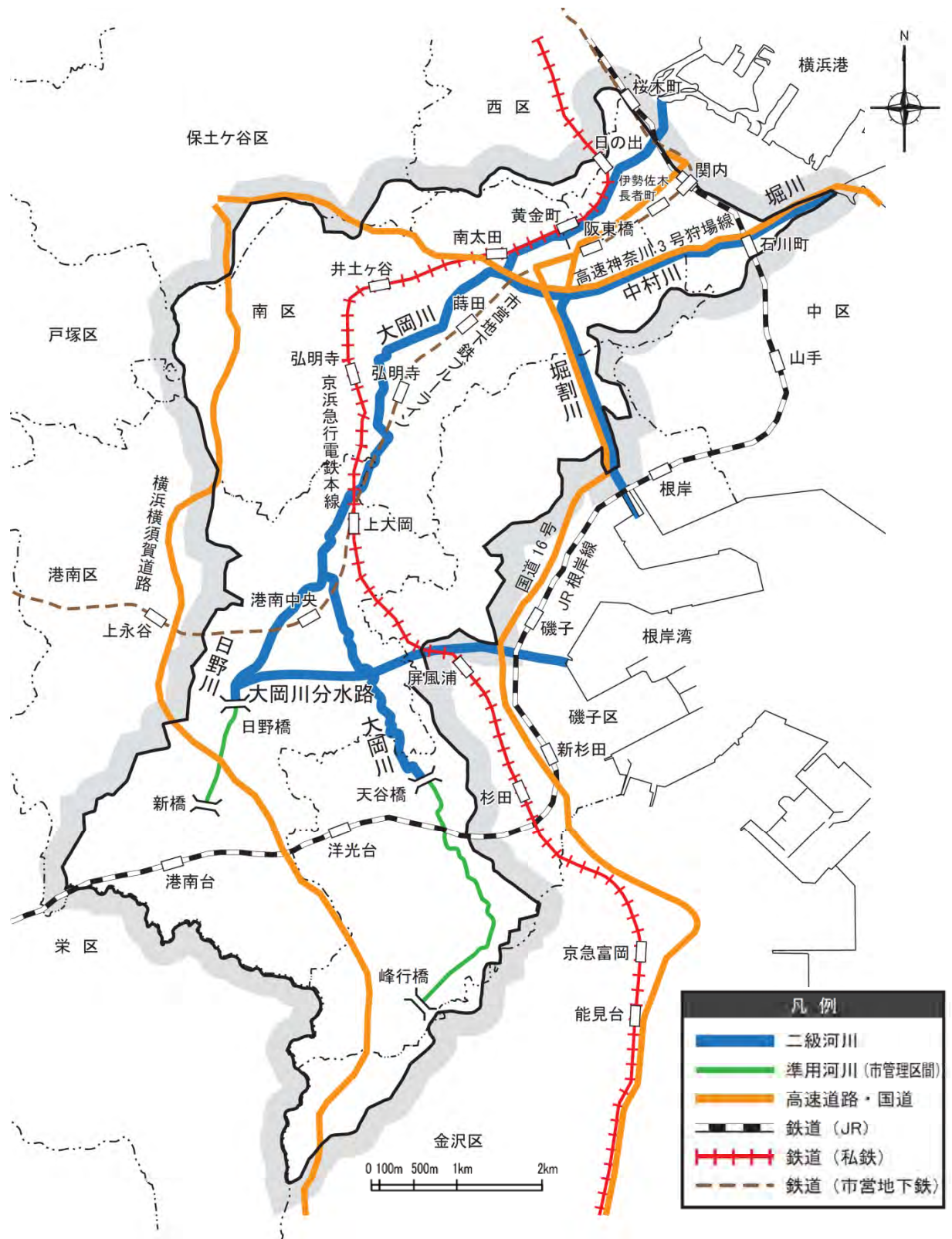


図9 大岡川流域の交通

[歴史・文化財]

お三の宮から下流の大岡川と中村川に囲まれた区域は、江戸時代初めまで「洲乾の湊」と呼ばれた遠浅の入り江であった。江戸時代の材木商の吉田勘兵衛らが、最初に伊勢佐木長者町付近まで新田を開発し、その時に現在の中村川が生まれた。ペリー来航を受け、横浜は開港場となり、中村川は堀川の開削により延長され、関内地区は出島として外国人居留地となった。明治に入り港が整備されると堀割川、吉田川、日の出川、新吉田川等の運河が次々に開削され、水上ネットワーク都市横浜が作られた。戦後は、建築用材の運搬を主体として水運利用が盛んに行われたが、戦後復興と共に輸送交通体系も陸運が主役となり、都心部では高度な土地利用が求められ、環境整備を目的とした公園や地下鉄・高速道路を整備するため、新吉田川等の運河は埋め立てられその役割を終えた。現在でも大岡川や堀割川では、舟運の名残として当時の階段護岸や船着場等が形を留めており、堀割川では船の荷物を積み降ろすための荷揚場や、船をつなぐための繫船柱などが、近代土木遺産として平成 22 年度に土木学会選奨土木遺産に認定された。



図 10 堀割川天神橋上流の荷揚場・石積み階段



図 11 堀割川八幡橋下流の階段護岸と土木遺産碑

第2節 河川の概要

[大岡川]

○ 下流区間：河口～清水橋

大岡川下流区間は、行政機関やオフィスビルが多数立地する関内・関外地区や、みなとみらい 21 地区等の観光地を流れ、都市部における貴重な水辺のオープンスペースを創出しているが、大部分が垂直なコンクリート護岸となっており、水辺に近づくことが難しい環境にあった。

そこで、地域のニーズに合った河川環境の再生等を目的とした、「大岡川河川再生計画」を平成 11 年度に策定し、横浜市や地域の方々と連携を図り、北仲通地区の「大岡川夢ロード」や黄金町駅周辺地区の「大岡川桜棧橋」等の親水施設を整備した。これらの親水施設は、地域の様々なお祭りやイベント等で 利用され、年々その利用者数は増加しており、地域活性化に寄与している。



北仲通地区 「大岡川夢ロード」



黄金町駅周辺地区 「大岡川桜棧橋」

○ 中流区間：清水橋～日野川合流点

大岡川中流区間は、港南区の上大岡駅周辺の商店街から、南区の弘明寺商店街周辺の繁華街にかけて、鎌倉街道に沿って流れている。この区間の特徴は、護岸の大部分がブロック積護岸であるが、横浜市と連携の上、河川内及び河川沿いに水辺のプロムナード(遊歩道)を整備したことにより、水辺の散策や水遊び、教育活動、地域イベント等で幅広く利用することが可能な環境となっている。また、地域住民の河川愛護意識も高く、清掃活動も盛んに行われている。



観音橋上流



久保橋下流

○ 上流区間：日野川合流点～天谷橋

大岡川上流区間は、磯子区から港南区の住宅地の中を釜利谷街道に沿うように流れる典型的な都市河川である。大岡川は、笹下地区では「笹下川」の愛称で呼ばれ、地域住民等による清掃活動や教育活動も盛んである。

また、この区間では釜利谷街道の笹下郵便局裏手において、昭和 56 年に大岡川分水路が完成し、分水路より下流区間の治水機能は大幅に向上したが、大岡川分水路より上流区間は河道断面が小さく、下流区間に比べ治水安全度が低いという課題を残している。



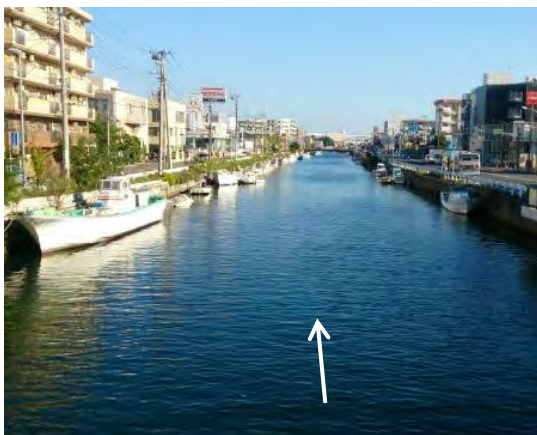
曲田下橋下流



天谷橋下流

[堀割川]

堀割川は、明治5年(1872年)に横浜の港整備に伴い開削された河川であり、舟運の名残として階段護岸や船着場等が形を留め、歴史ある景観を形成しているが、近年は河川内に不法係留船舶等が多数存在し、良好な景観を損ねているだけでなく、治水上の支障となっている。



根岸橋下流

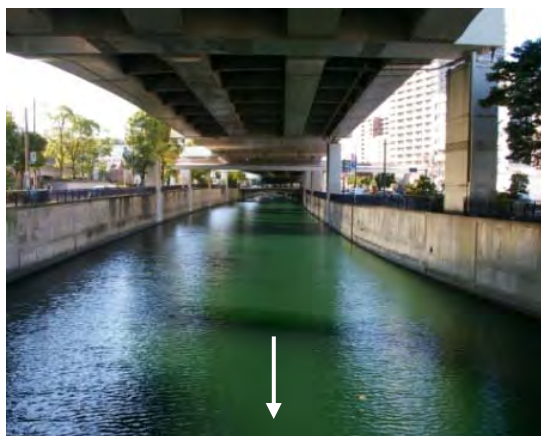


中村橋下流

[中村川・堀川]

中村川・堀川は、石川町や元町商店街、中華街といった観光・商業地域を流れており、都市部における水辺のオープンスペースとなっているが、河川上空を高速神奈川3号狩場線がほぼ全川に渡り縦断していることや、護岸の大部分が垂直なコンクリート護岸であることから河川環境に課題を残している。

なお、中村川・堀川も大岡川下流区間と同様に大岡川河川再生計画に位置づけられている。



山下橋上流（堀川）



浦舟水道橋上流（中村川）

[日野川]

日野川は、港南区の住宅地を鎌倉街道に沿って流れ、笹野橋付近で大岡川と合流しており、上流部の川渡橋付近では日野取水庭から大岡川分水路へ洪水を分水している。

日野川も河川に住宅が近接した典型的な都市河川であるが、近年は地域住民等による清掃活動等も実施され、河川愛護の意識が高まっている。また、近年は老朽化した護岸の修繕工事や、親水機能を高める階段護岸の整備を進めており、貴重な水辺空間の機能維持・向上に努めている。



笹野橋上流



大谷橋下流

第2章 河川の現状と課題

第1節 洪水による災害の発生防止又は軽減に関する事項

〔水害の発生状況〕

大岡川における過去の水害は、昭和36年6月の梅雨前線豪雨、昭和41年6月の台風4号、昭和49年7月の台風8号等による洪水があげられる。

大岡川分水路完成後(昭和56年)は、分水路より下流では大きな水害は発生していない。



出典：大岡川分水路建設フィルムより

図 12 昭和48年豪雨発生状況

表 1 大岡川水系の主な水害

発生年月日	原因	降雨量(mm)		建物被害(棟)		
		時間最大	合計	床下浸水	床上浸水	全壊流出
昭和36年6月28日	梅雨前線豪雨	58.2	213.4	3,812	2,942	1
昭和41年6月27日～28日	台風4号	22.8	267.5	4,029	953	1
昭和45年6月10日～18日	梅雨前線、台風2号	17.5	164	759	187	32
昭和48年11月9日～11日	豪雨	33.5	178.5	52	3	0
昭和49年7月1日～12日	台風8号、豪雨	43.5	231	27	17	0
昭和56年10月19日～25日	台風24号	38.5	194.0	6	0	0
昭和57年9月10日～13日	豪雨と台風18号	42.5	290	67	11	0
平成9年8月23日～24日	豪雨	38.5	38.5	7	0	0
平成10年7月26日～31日	梅雨前線豪雨	92	100	9	45	0
平成17年9月3日～8日	台風14号	40.5	105	10	4	0
平成21年8月8日～11日	台風9号	46.5	105	1	0	0
平成21年10月5日～9日	台風18号	38	208	1	1	0

出典：水害統計（国土交通省河川局）・気象庁HP

[治水事業の沿革]

大正 12 年の関東大震災では横浜市内も大きな被害を受け、大岡川水系の護岸、橋梁はほとんど壊滅状態になった。その震災復興事業では、大岡川は国の機関である帝都復興院が、中村川、堀川、堀割川は横浜市が行った。これらの復興事業により、ほぼ垂直な石積み護岸が整備され、現在の大岡川の原型がつくられた。いまも護岸や橋梁では、当時の姿を見ることができる。

大岡川流域の治水対策は、昭和 36 年代後半の JR 根岸線の延伸により、大岡川上流域や日野川流域の宅地開発が急速に進み、その結果、流域の保水機能の低下等により、雨水の流出量が増大し、昭和 36 年 6 月、昭和 41 年 6 月の洪水など、被害が多発するようになったことに始まる。特に昭和 36 年の豪雨の際は、浸水面積約 300ha、全壊流失 1 戸、床上浸水 2,942 戸、床下浸水 3,812 戸という甚大な被害が発生した。これに対し、上流域では災害復旧助成事業により河道整備が行われたが、中下流域では河道の拡幅を行うことは市街化の進展状況等から困難な状況であった。そこで大岡川上流域ならびに日野川からの洪水を全量カットし根岸湾に流す、全体延長約 3.6km の大岡川分水路を昭和 44 年に計画し、昭和 56 年に完成している。



図 13 大岡川笹下取水庭



図 14 日野川日野取水庭

[河川の整備状況]

- 大岡川 : 河口から^{かんのん}観音橋間は大正 13 年から昭和5年にかけて、関東大震災の復興事業で護岸改修・浚渫が実施された。大井橋から天谷橋間は昭和 36 年から昭和 43 年にかけて、台風による災害復旧事業で護岸改修が実施された。これらの改修により、現在、大岡川分水路より下流では、時間雨量概ね 50mm 規模の洪水に対する治水安全度を満足しているが、大岡川分水路より上流では満足していない。また、中村川分派点より下流では、平成 11 年から大岡川河川再生計画に基づく親水施設等の整備が進められている。
- 中村川・堀川 : 関東大震災の復興事業で、大正 14 年から昭和4年にかけて護岸改修・浚渫が実施された。これらの改修により、現在では概ね時間雨量 50mm 規模の洪水に対する治水安全度を満足している。
- 日野川 : 台風による災害復旧事業で、昭和 36 年から昭和 43 年にかけて、大岡川合流点から日野橋間の護岸改修が実施された。これらの改修により、現在では概ね時間雨量 50mm 規模の洪水に対する治水安全度を満足している。
- 堀割川 : 関東大震災の復興事業で大正 15 年から昭和3年にかけて、護岸の改修・浚渫が実施された。これら改修により、現在では概ね時間雨量 50mm 規模の洪水に対する治水安全度を満足している。
- 大岡川分水路 : 昭和 44 年に都市計画決定を行い、県と横浜市共同のもとに昭和 44 年度から事業を開始し昭和 56 年に完成した。平成 25 年度から開閉装置等の更新工事を実施しており、現在は施設の長寿命化について検討している。

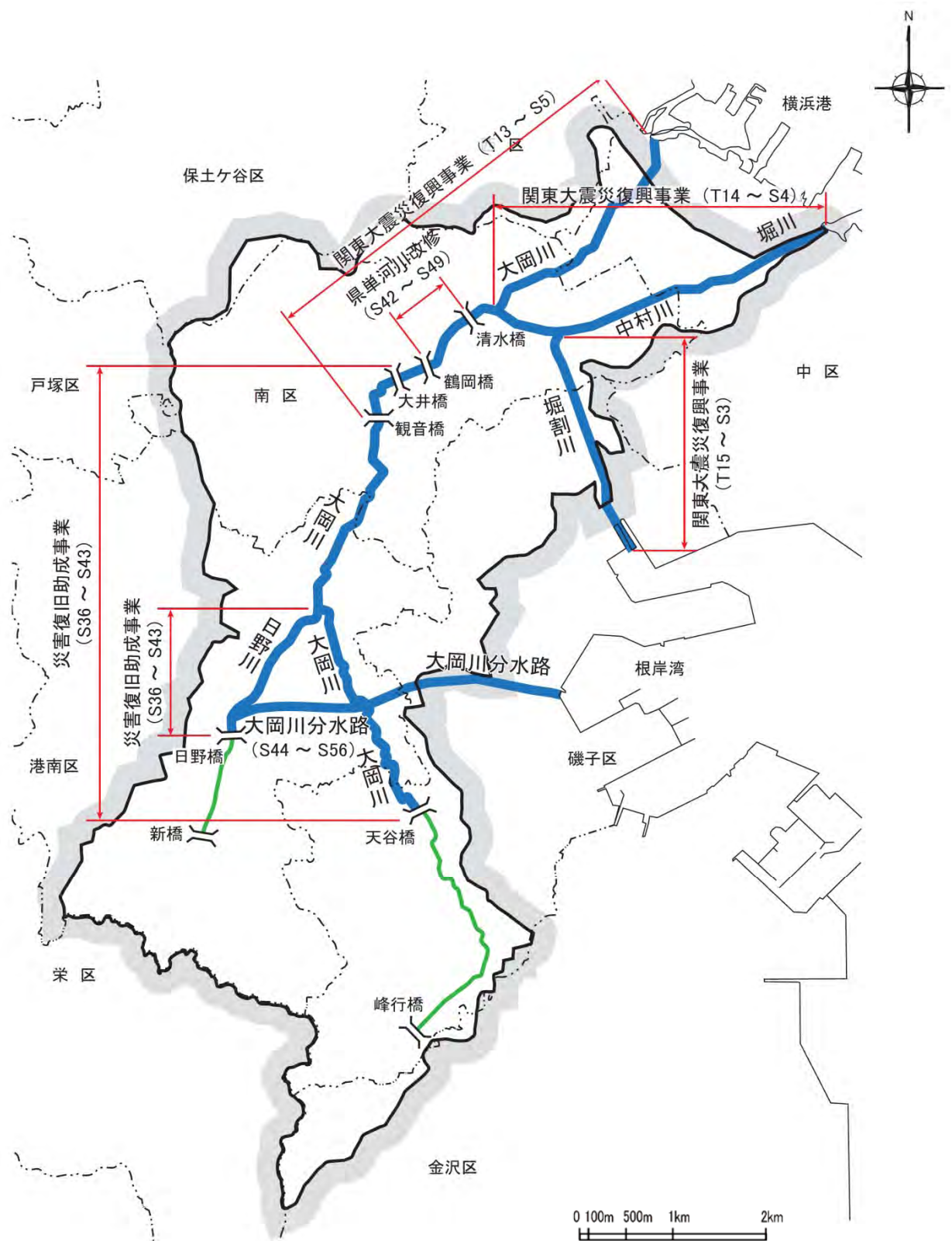


図 15 大岡川水系河川整備状況図

第2節 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

[利水]

大岡川水系の河川水の利用について、江戸時代には大岡川沿川の谷地に多くの水田が存在したが、現在水田はなく、かんがい用水としての利用はない。また、昭和40年代には、中流部に横浜の名産品であるスカーフ等の繊維製品の^{なっせん}捺染工場が多数立地し、洗浄用として河川水を利用していたが、上流域の人口集中による水質悪化に伴い利用できなくなり、昭和50年代後半以降では、水道用水、工業用水としての利用もない。



図 16 大岡川水系流量・水質観測地点位置図

[水量]

埋田橋^{うめだ}地点における過去10年(平成10～19年)の平均濁水流量は $0.24\text{m}^3/\text{s}$ 、平均低水流量は $0.27\text{m}^3/\text{s}$ である。

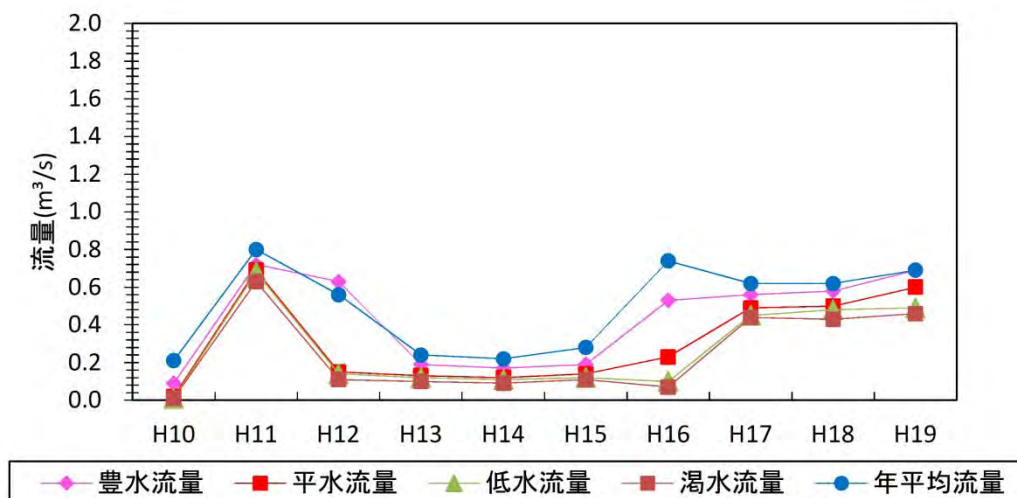


図 17 大岡川埋田橋地点の流況

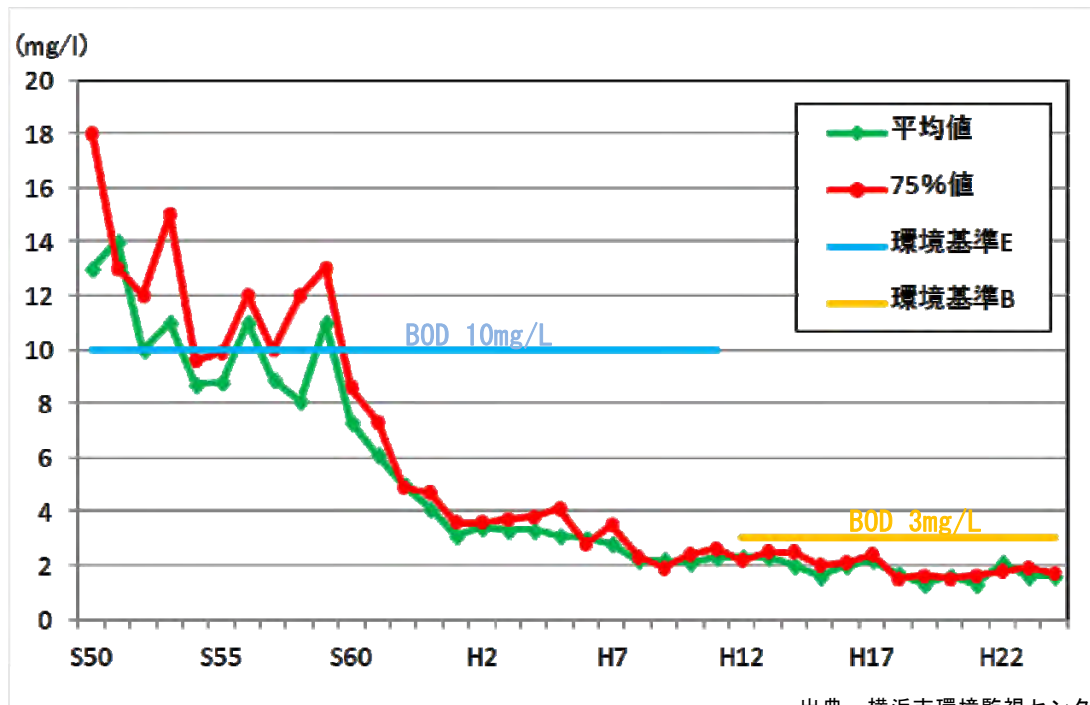
豊水流量：1年を通じて95日はこれを下回らない流量　平水流量：1年を通じて185日はこれを下回らない流量

低水流量：1年を通じて275日はこれを下回らない流量　濁水流量：1年を通じて355日はこれを下回らない流量

[水質]

大岡川では、下水道整備を含めた生活排水対策等により、昭和 50 年度(下水道普及率 27%時)には 18mg/L であった BOD*75%値が、平成 24 年度(下水道普及率 99.8%)には 1.7mg/L に低下している。

※BOD:生物化学的酸素要求量 水の汚れ具合を示す指標



出典：横浜市環境監視センターHP

図 18 大岡川清水橋地点の BOD75%値の経年変化

表 2 平成 24 年度の水質調査結果と環境基準値との比較

項目	地点名	大岡川 清水橋 B*類型	環境基準値 B類型 (河川)
水素イオン濃度 (pH)		8.0	6.5以上 8.5以下
生物化学的酸素要求量 (BOD)		1.7mg/L	3mg/L以下
浮遊物質 (SS)		3.0mg/L	25mg/L以下
溶存酸素量 (DO)		7.6mg/L	5mg/L以上
大腸菌群数		33000MPN/100mL	(※)

(※) 大腸菌群数に係る基準値については、当分の間適用しない。

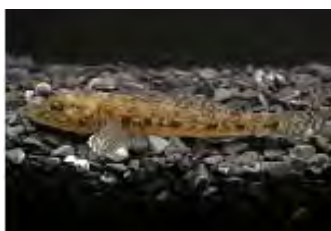
出典：横浜市環境監視センター・神奈川県大気水質課HP

第3節 河川環境の整備と保全に関する事項

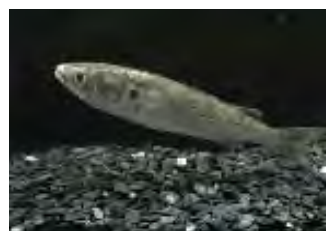
[動植物の生息状況]

大岡川に生息する生物については、河口付近より上流 3.8km の^{まいた}蒔田橋付近までは感潮区間であり、植生は乏しく、周縁性の魚類であるマハゼ、ボラ、通し回遊魚のマルタ等が生息する程度である。感潮区間より上流では、部分的に砂州が形成され、オギ、オオイヌタデ、ミゾソバ等の群落、コイ、アブラハヤ、ドジョウ等の魚類、カルガモ、サギ類等の鳥類が見られる箇所があり、近年では、河川環境の良い指標といわれているカワセミも確認されている。また、花見橋でアユの流下仔魚が確認されていることから、花見橋から青木橋まではアユの産卵場となっていると考えられる。源流域は、近郊緑地保全区域であり、アブラハヤ、シマドジョウ、ホトケドジョウ、ヌカエビ、カワニナ等の魚介類等のほかゲンジボタルも確認されている。

このように、都市河川である大岡川にも多様な生物が生息しており、生息・生育・繁殖環境を保全・回復することが求められている。また、在来種に対する外来種の影響も懸念されている。



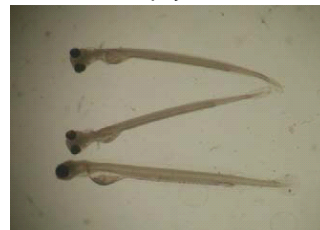
マハゼ



ボラ



アユの成魚



採集されたアユ仔魚



アブラハヤ



シマドジョウ



カワセミ



ゲンジボタルの幼虫

出典：横浜の川と海の生物 横浜市環境科学研究所 H21.2

図 19 大岡川に生息する動物

[河川空間の利用]

大岡川の河口から中流区間にかけて、昭和 50 年代から川沿いに横浜市のまちづくりと連携したプロムナードが整備され、川沿いを散策する人々が多く見られる。また、プロムナード沿いの桜並木は横浜の名所となっており、桜の季節には、地元主催による大岡川桜まつりが毎年開かれ、この行事には沿川住民のほか近隣からも数多くの人々が訪れる等盛況である。下流区間は地元高校のカヌー練習に利用されているほか、有志の企画によるカヌーフェスティバルが毎年行われている。この他にも、小学校の総合的な学習の時間や川遊びに利用されたり、地元町内会や商店街の有志による清掃等が行われている。このように、今日においても地域住民の川への関心は高く、川との関わりも多い。



プロムナード（大岡川）

<大岡川河川再生事業の拠点整備状況>

(1) 北仲通地区「大岡川夢ロード」(横浜市中区)

大岡川河口部の両岸に整備され、ボードデッキを利用して水辺の散策や、横浜を代表する観光地のみなとみらい21地区を望むことができ、多くの人々が訪れる場所となっている。また、明治時代の旧護岸や荷揚場等を修復・保全するなど、歴史を感じることができる場所としても整備されている。



大岡川夢ロード

(2) 黄金町駅周辺地区「大岡川桜栈橋」(横浜市中区)

地域住民からの積極的な計画立案により整備された施設であり、船着場としての機能を持ち、カヌーやEボートが利用しやすい場所となっている。また、大岡川桜まつりを始めとした様々なイベントに活用されており、地域活性化等に貢献している。今後も施設を利用した防災活動や、教育活動、地域活性活動の促進が期待されている。



大岡川桜栈橋

(3) 蒔田公園地区「ふれあいアクアパーク」(横浜市南区)

大岡川と中村川の分岐点に位置する蒔田公園の一角に整備された親水施設であり、蒔田公園と一体化した開放的な空間となっている。また、ボードデッキを利用して水辺に親しむことができるだけでなく、災害時には防災拠点として様々な利用が可能な場所となっている。潮の干満により水深の変わる階段護岸では、季節に応じた水生生物等が観察でき、地域の子供たちの水辺環境学習の場にもなっている。地域のお祭りや文化的なイベント、カヌー体験教室など、地域のコミュニティの創出にも活用されている。



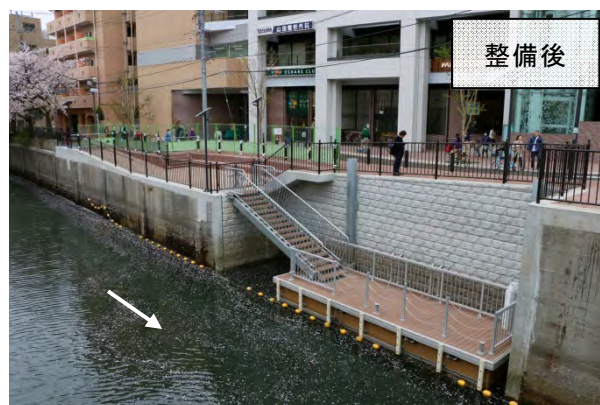
ふれあいアクアパーク

(4) 日ノ出町地区「横浜日ノ出棧橋」(横浜市中区)

日ノ出町地区では、京急日ノ出町駅から長者橋へ向かう橋際付近で親水施設を整備している。日ノ出町の駅前再開発と一体的な整備をすることにより、地域の活性化やまちの賑わい創出にも効果が期待されている。浮棧橋を設置することにより、親水性の向上はもちろん、水上交通を利用しやすい施設となっている。また、防災拠点としての機能も備えており、災害時には中央広場への軽車両の進入が可能であり、さらに船舶等による物資運搬にも配慮した施設となっている。



整備前



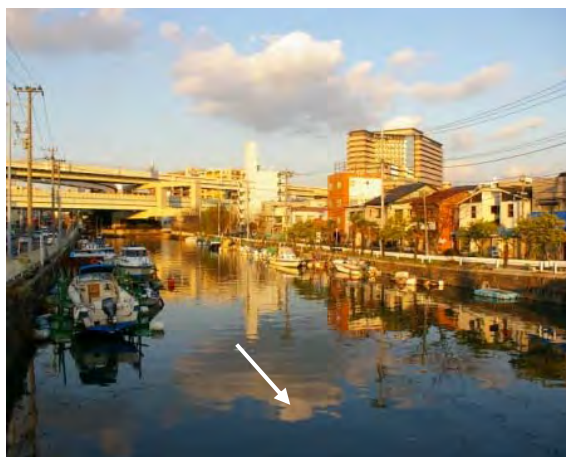
整備後

日ノ出町地区

(5) 堀割川(横浜市南区～磯子区)

堀割川を中心に多数の不法係留船舶等が存在し、これらは高潮や津波発生時に河川管理施設等を損傷させるだけでなく、背後住宅への二次災害が懸念されるとともに、無秩序な係留による景観の悪化や、他の水面利用への支障となる恐れがある。このため、県では不法係留船舶等の適正化に向けた様々な取組みを計画的に進めている。

堀割川は、歴史的景観を留める土木遺産の護岸を有した魅力的な河川でもあるため、今後は八幡橋下流右岸の磯子地区で、親水施設等の整備を進め、より魅力的な河川空間の創出を図っていくことが重要である。



中村橋上流



磯子地区(八幡橋下流)

第3章 河川整備計画の目標に関する事項

第1節 計画対象区間

本河川整備計画の対象区間は、大岡川水系の二級河川区間(法指定区間)の全ての区間とする。

表 3 計画対象区間

河川名	区 間			延長 (km)	
		上流端	下流端		
大岡川水系	大岡川	左岸	横浜市磯子区田中町 461 番地先	河口	10.5
		右岸	同町 489 番地先		
	大岡川分水路	左岸	横浜市港南区日野町字清水 1,499 番地先	河口	3.6
		右岸	同町 字寺尾 1,502 番地の 2 地先		
	日野川	左岸	横浜市港南区日野町字大北 967 番地の 3 地先	大岡川合流点	1.9
		右岸	同町 字寺尾 1,779 番地の 9 地先		
	中村川	左岸	横浜市南区吉野町 5 丁目 26 番地先	西の橋	3.0
		右岸	同区 宿町 1 丁目 3 番地先		
	堀割川	左岸	横浜市南区中村町 224 番地先	河口	2.7
		右岸	同区 睦町 23 番地先		
	堀川	左岸	横浜市中区山下町 276 番地先	河口	0.9
		右岸	同区 元町 5 丁目 191 番地先		

第2節 計画対象期間

本河川整備計画の目標を達成するための対象期間は、概ね 20 年とする。

なお、本計画は、流域の社会状況の変化や新たな知見、技術の進歩等にあわせ、計画期間内においても必要な見直しを行うものとする。

第3節 洪水による災害の発生防止または軽減に関する事項

(1) 洪水を安全に流下させるための対応等

大岡川分水路より上流区間において、年超過確率 1/6.3(時間雨量 50mm)の規模の洪水を安全に流下させることを目標とする。

整備途上段階あるいは計画規模を上回る洪水が発生し氾濫した場合においても、水防管理団体等と連携を図りながら、被害軽減対策を進めていく。

関係機関や地域住民と連携して、災害情報伝達体制及び警戒避難体制の整備等水防体制の強化を図り、水防危険箇所やハザードマップ等の河川情報の提供を行う等、総合的な被害軽減対策を推進する。

また、地震の影響について検討を進める。

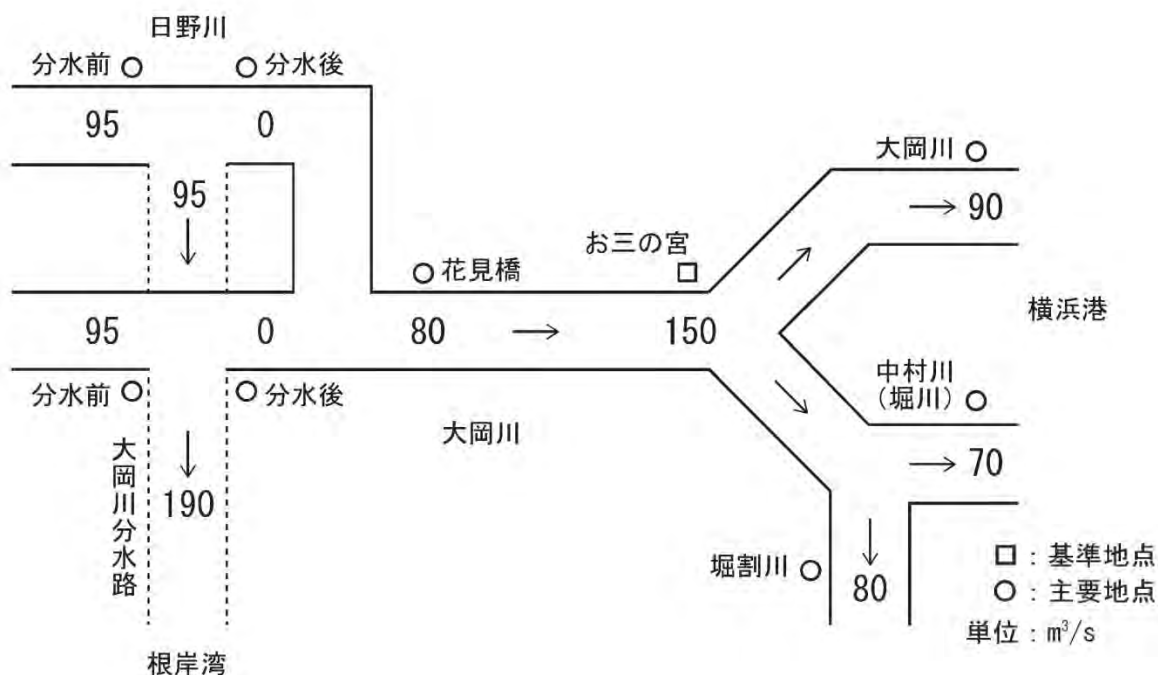


図 20 整備目標流量

(2) 老朽化への対応

老朽化により機能の低下が懸念される河川管理施設については、施設の長寿命化を図るとともに、計画的に補修、更新等を実施し機能を維持する。これにより、老朽化による機能低下に伴う浸水被害を未然に防ぐ。

第4節 河川の適正な利用及び流水の正常な機能維持に関する事項

河川の適正な利用及び流水の正常な機能を維持するために必要な流量に関しては、流量等のデータの蓄積に努め、検討を進める。

第5節 河川環境の整備と保全に関する事項

大岡川水系の河川は都市域での貴重な自然環境ならびにオープンスペースであることから、河川事業の実施に当たっては、河川の特長や地域の環境に配慮し、自然環境の保全・再生を進めるとともに、地域住民が川と親しむことができる水辺空間の形成に留意した整備を図る。また、大岡川下流区間、中村川、堀川及び堀割川においては、「横浜市地区かわまちづくり計画」に基づき、横浜市のまちづくりと連携した親水施設等の整備を進めていく。

第4章 河川整備の実施に関する事項

第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

河川工事は、河川整備計画の対象期間内に整備目標流量を安全に流下させるために、河道整備を進める。

なお、河道整備は多自然川づくりを基本とし、河川工事の実施にあたっては、河川に生息する多様な生物の生息、生育、繁殖環境や、景観に配慮した整備を行う。

表 4 主な施行箇所

河川名	整備内容	施行箇所	延長 (km)	図 No. (図 22 参照)
大岡川	河道整備 護岸工、河床掘削工等	川島橋～天谷橋	1.4	①
大岡川分水路	長寿命化対策	水門他	3.6	②
大岡川 中村川 堀川 堀割川	親水施設等整備	河口～中村川分派点 (堀割川 八幡橋下流他 拠点整備)	-	③

(1) 河道整備

施行箇所は河川沿いに住居が近接していることなどから、新たに河道を拡幅することは非常に困難である。整備目標流量を計画高水位以下で安全に流下させるため、原則として、河道拡幅を伴わずに、必要な護岸工や河床掘削工等を行い河道断面を広げる。

(2) 長寿命化対策

大岡川分水路は昭和 56 年に完成し、整備計画期間(概ね 20 年)において、建設から 50 年を迎えることから、老朽化により機能が低下しないよう施設の改良等適切な措置を講じる。

(3) 親水施設整備

「横浜市地区かわまちづくり計画」に基づき、まちづくりと連携した親水施設等の拠点整備を行う。

(4) その他

地震、高潮による被害の発生を防ぐため、必要に応じて河川管理施設の耐震対策及び高潮対策を実施する。

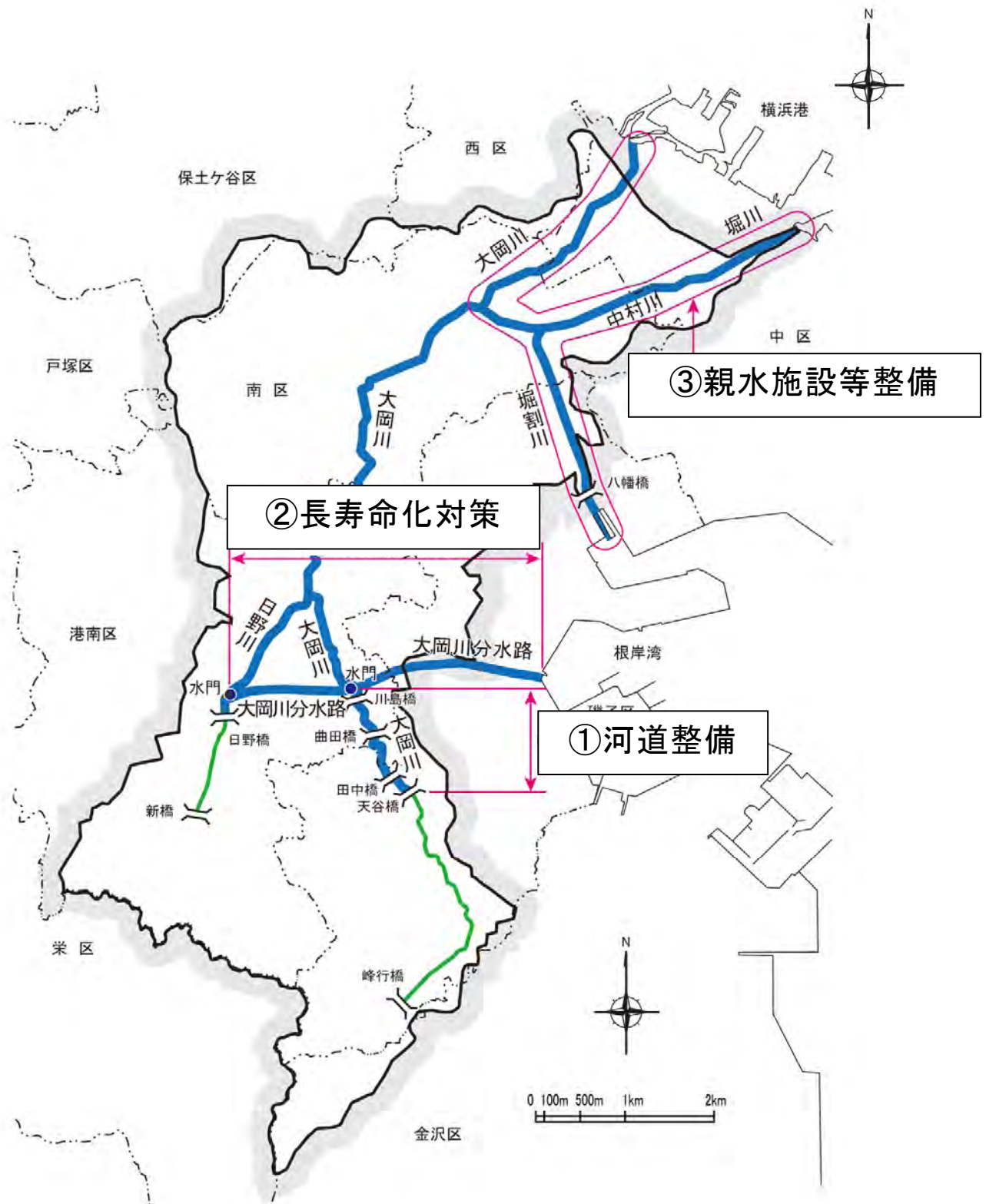
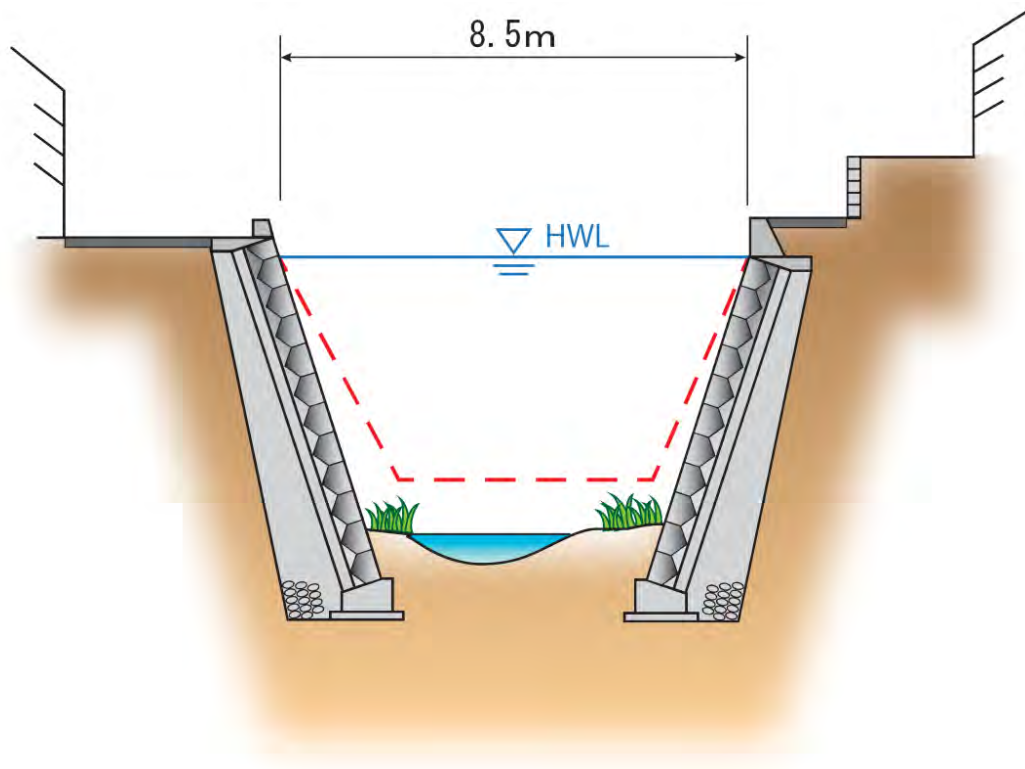
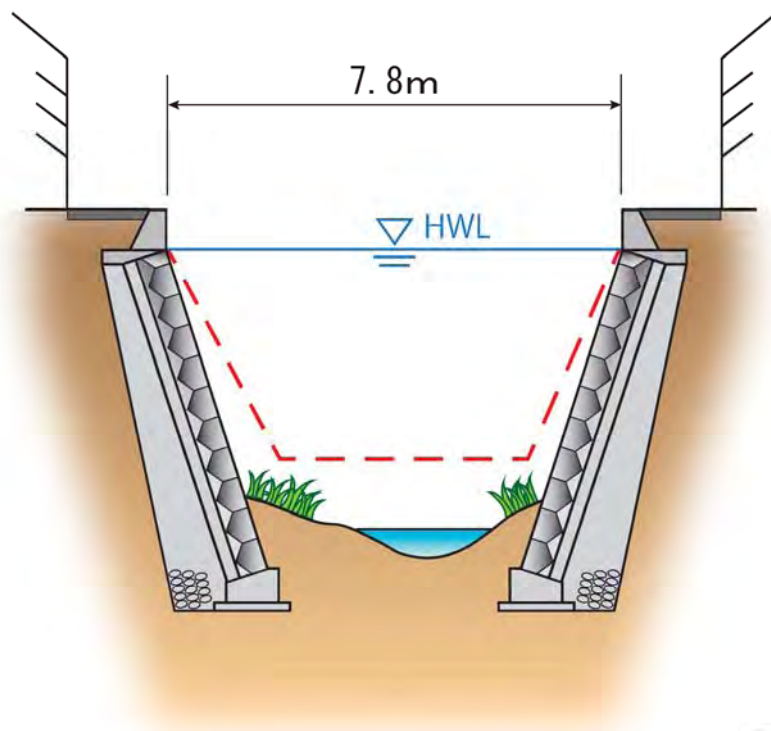


図 21 河川整備位置図



曲田橋付近



田中橋付近

— — — : 現況河道

図 22 河川整備のイメージ

第2節 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

河川の適正な利用及び流水の正常な機能を維持するために必要な流量に関しては、今後引き続き河川流況のデータ蓄積に努め、検討を進める。

第3節 河川環境の整備と保全に関する事項

河川環境の整備と保全に関しては、河川は身近な自然とふれあえる貴重な公共空間であり、人々に安らぎや潤いを与える場所であるため、「多自然川づくり」として、こうした河川の環境を整備・保全に努める。

【人と川とのふれあいの場の確保】

大岡川下区間、中村川、堀川及び堀割川においては、「横浜市地区かわまちづくり計画」に基づき、水辺の広場を確保し、利用目的に応じた整備を行うことにより、人々が水辺にふれあえる場及び交流を育む場を提供する。大岡川分水路より上流区間における親水施設等の整備については、事業実施の段階で検討を行う。

また、横浜市と連携し、川沿いには人々が安全で快適に通行できるように、遊歩道の整備を図る。

さらに、河川情報をはじめとし、イベント、市民活動に関する情報等、様々な流域情報を市民に提供するとともに、人々の交流及び環境学習の機会を提供する。

第4節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

河川の維持管理に関しては、災害の発生の防止や河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全の観点から、河川管理施設等を良好な状態に保つよう、適切な維持管理を行う。

[河川巡視の実施]

計画的に河川を巡視し、護岸等の河川管理施設の保全状況、河床の状況、樹木の繁茂状況等を把握する他、河川管理者以外の者が設置・管理している工作物の維持管理状況、不法係留船舶等の不法行為を監視し、これらの結果を踏まえ、必要な維持管理対策を実施する。

[維持管理対策の実施]

1 河川管理施設の維持管理

(1) 護岸

- ・ 河川巡視等により護岸法面の目地開きや亀裂、はらみ、天端の沈下や陥没、及び護岸基礎前面の深掘れや河床の洗掘等が確認できる場合、優先度に応じて必要な補修等工事を実施する。
- ・ 無秩序に雑草や樹木が繁茂しすぎると、河川管理や河川利用に支障を来たすため、必要な時期に除草や伐採等を実施する。
- ・ 河川巡視や洪水時の水防活動等に必要な管理用通路の適切な維持管理を行う。

(2) その他の河川管理施設

- ・ 各親水施設や大岡川分水路については、必要に応じて施設の補修等適切な措置を講じる。
- ・ 不法係留船舶等の不法行為や不法工作物は、河川管理や河川利用に支障を来たすため、行政指導等により適正化を図る。

2 河川美化対策

- ・ 河川へのゴミの不法投棄等の対策のため、関係機関と連携し、河川に関わる地域のイベント等を通じて、河川愛護、美化に対する意識の啓発活動を積極的に実施する。

[維持管理の施行区間]

維持管理を行う区間は、大岡川水系の二級河川区間(法指定区間)である。

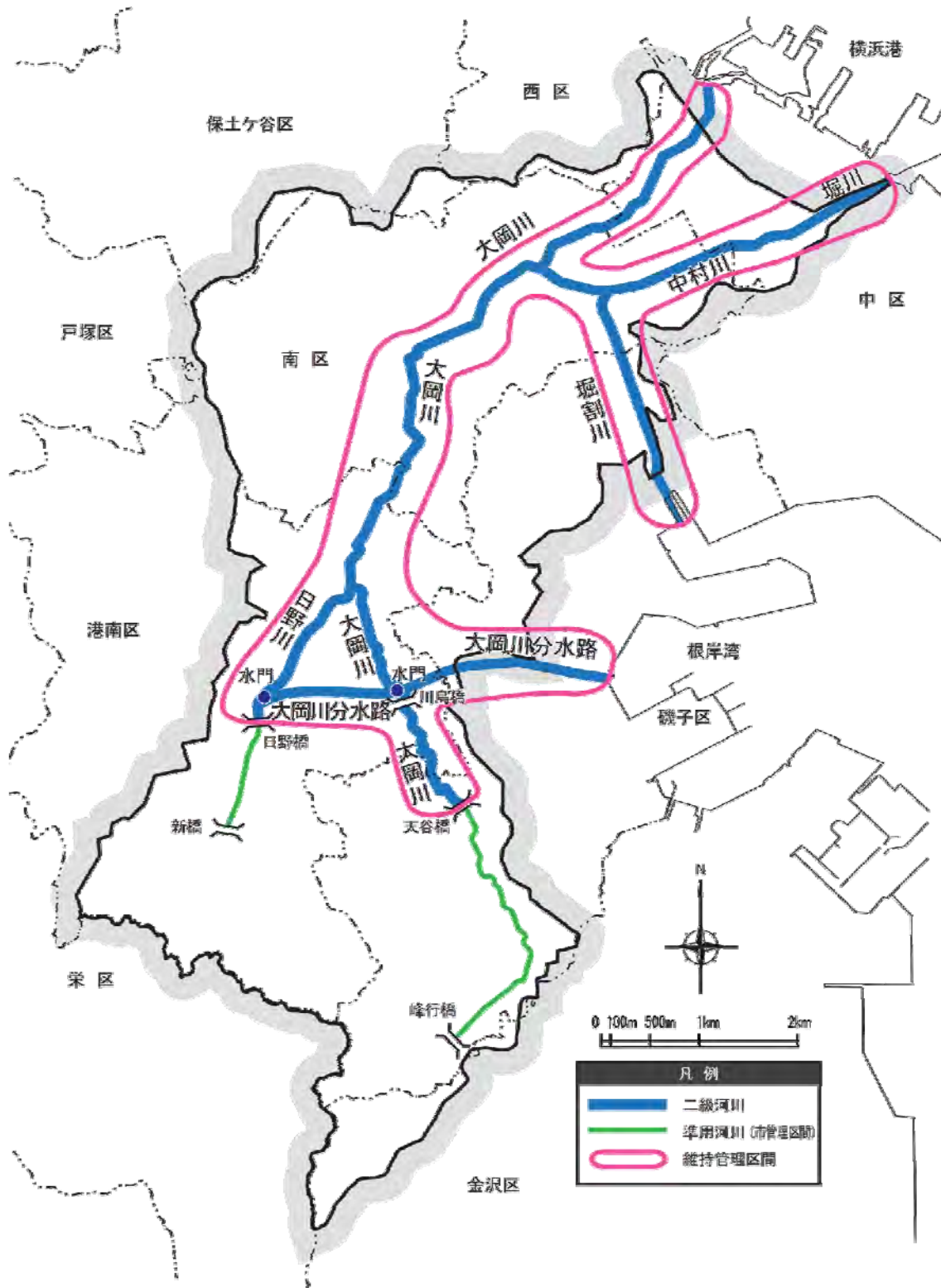


図 23 河川維持管理位置図

第5章 その他

第1節 地域と連携した河川管理

[河川防災情報の提供]

雨量・水位の河川情報の収集を行い、県のホームページを通じて、降雨や河川の水位に関する河川防災情報の提供を行う。また、河川防災情報は携帯電話のサイトも公開している。

河川親水施設においては、急な増水による水難事故防止のため、利用者が速やかに避難できるよう、大雨や洪水に関する注意報、警報等が発表された際は、警報装置等による注意喚起を行う。

[地域防災力の向上]

大岡川河川再生計画に基づく下流区間の親水施設は、防災拠点としての機能も備えており、横浜市や地域の方々と連携し、それらの親水施設を活用した防災訓練等の取り組み等を推進する。

[地域と連携した河川管理]

河川に関する情報を流域住民に幅広く提供・共有し、環境教育や川を軸とした地域づくり活動、地域で行われる河川美化活動への支援など、地域と連携した河川管理を推進する。